

CDP ウェビナー

スコープ3の把握・削減に向けて

2021 年 10月 27日（水）

開始：15:00 終了予定：16:10



プログラム

- ▼ オープニング： CDP 高瀬 香絵
- ▼ スコープ3の概要と削減活動の可視化について：
株式会社ウェストボックス 鈴木 修一郎 様
- ▼ 企業の実情に沿ったスコープ3の把握と削減に向けて：
CDP 河村 渉
- ▼ CDPサービスのご紹介：CDP 松川 恵美、河村 渉
 - ・ CDP サプライチェーン・プログラム
 - ・ CDP RS及び認定パートナー
- ▼ 質疑応答
- ▼ 閉会

- ※ **本イベントの無断録画・録音・掲載は禁止しております**
録画は後日CDPウェブサイトに掲載する予定です
- ※ **すべての講演終了後に、質疑応答の時間を設けています**
Zoom のQ&A機能をご利用いただけます
ご質問の際は画面下の[Q&A]アイコンをクリックして、質問内容をご入力ください
- ※ **時間の制約上、すべての質問に応じかねることがあります あらかじめご了承ください**

プログラム



- ▼ オープニング： CDP 高瀬 香絵
- ▼ スコープ3の概要と削減活動の可視化について：
株式会社ウェストボックス 鈴木 修一郎 様
- ▼ 企業の実情に沿ったスコープ3の把握と削減に向けて：
CDP 河村 渉
- ▼ CDPサービスのご紹介：CDP 松川/河村
CDP サプライチェーン・プログラム
CDP RS及び認定パートナー
- ▼ 質疑応答
- ▼ 閉会

企業の削減範囲はスコープ3を含むことがコンセンサスに



UNFCCC COP26に向けたRace to Zeroキャンペーン



Oxford大による各種ネットゼロの定義をレビューしたペーパーでは、スコープ3を含むことは、「コンセンサス」と評価。

科学に基づく目標設定(SBT)イニシアチブ



クライメイト・アクション100+

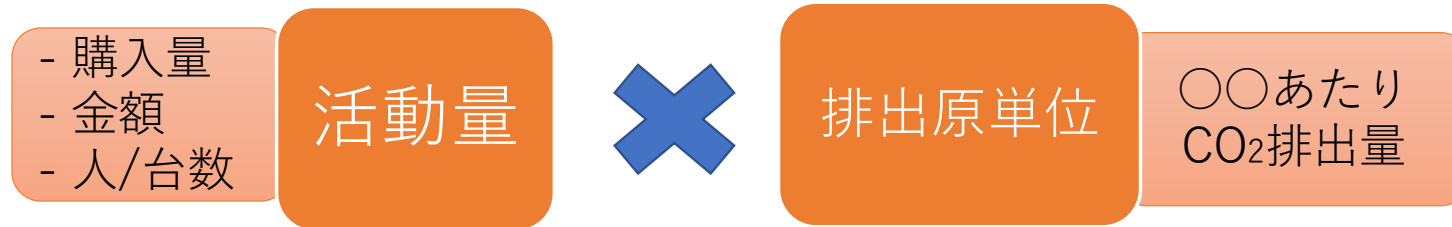


中期目標：スコープ3が4割を超えたら2/3をカバーするスコープ3目標設定
ネットゼロ：スコープ3は必ず含むという案（コンサルテーション中）
金融SBT：ポートフォリオ気温上昇については、投資先企業のスコープ1+2に加えて、スコープ1+2+3についても目標設定が必要。他はSBTに準ずる。

バリューチェーン全体が対象。



サプライヤーが関わる上流排出をどう減らす？



原単位が固定では削減になりません。
(活動量を減らすしかない…)

優先すべきは一次データ。一次データがない場合は二次データ。
(一次データ：サプライヤーから得られた値。)

スコープ3の文脈



何の目的で算定・追跡しているのか、からデザインすることが重要



出典：[GHG Protocol scope 3 standard](#)

*Companies should
balance tradeoffs
between principles
depending on
their individual
business goals.*

企業は、それぞれのビジネス・ゴールに応じて、原則間のトレードオフのバランスをとる必要があります。…時間の経過とともに、スコープ3のGHGデータの精度と完全性が向上すれば、これらの算定原則の間のトレードオフはおそらく小さくなるでしょう。

- 
1. Relevance → 社内外のデータユーザが意思決定をするのに有益であるか？
 2. Completeness → バウンダリ内全体、全GHGを「把握」
 3. Consistency → ルールを決めて基準年を随時再計算（量的には10%以上等）
 4. Transparency → プロセス、手順、仮定、限界について開示
 5. Accuracy → ビジネスゴール、データユーザの意思決定に十分な正確性
- 

第7章 正確性：パフォーマンスを最も効果的に追跡するために、企業は、GHG削減を達成することを目的としたスコープ3の活動について、サプライヤーやその他のバリューチェーンパートナーから収集した一次データを使用すべきである。

一次データを使ったスコープ3算定の大きな誤解

精緻？正確？一度決めたら変えられない？第三者検証が大変？



産業連関表の方が正確
ですね？

CDPのセクター平均原単位を比較
すると随分違います。

一度算定してしまったので、
一次データを使うと、値が大
きく変わってしまいます。

一次データを使ったス
コープ3の第三者検証
はサプライヤーの電力
料金までチェックする
と聞きましたが？



一次データを活用したスコープ3算定（上流の事例）



産業連関表の方が正確ですね？

CDPのセクター平均原単位を比較すると随分違います。



GHGプロトコルスコープ3基準では、一次データが得られない場合、二次データという記載があります。また、産業連関表は5年より前といった古いものであり、**個別サプライヤーの努力が反映されません。**

一度算定してしまったので、一次データを使うと、値が大きく変わってしまいます。



GHGプロトコルスコープ3基準では、方法論を改善してゆき、方法論や結果の値が大きく変わった場合（企業側で閾値を設定）、基準年を再計算することとしています。方法論を古いまま固定する必要はなく、常に改善していくことを推奨しています。

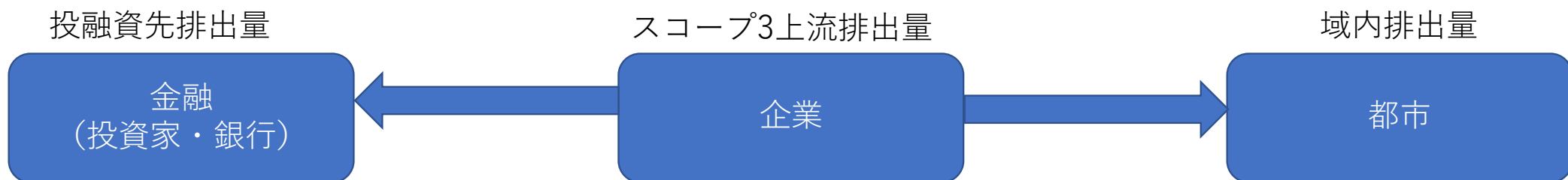
一次データを使ったスコープ3の第三者検証はサプライヤーの電力料金までチェックすると聞きましたか？



日本では、第三者検証と監査の方法が明確に区別されていないようで、左記の方法は監査の方法に思われます。欧米において、一次データの処理方法の第三者検証の場合、CDPサプライチェーンプログラムから得られたデータの処理方法、改ざんがないかを検証する事例が多いようです。現在、一次データを使ったスコープ3の第三者検証（監査ではなく）ができるパートナーを募集しています。

CDPが目指す姿

第三者が設定した設問・評価、有機的につながる各開示システム



第三者として時代に沿った質問書の開発

各国政府・自治体、TCFDとの連携

プログラム



- ▼ オープニング： CDP 高瀬 香絵
- ▼ スコープ3の概要と削減活動の可視化について：
株式会社ウェストボックス 鈴木 修一郎 様
- ▼ 企業の実情に沿ったスコープ3の把握と削減に向けて：
CDP 河村 渉
- ▼ CDPサービスのご紹介：CDP 松川/河村
CDP サプライチェーン・プログラム
CDP RS及び認定パートナー
- ▼ 質疑応答
- ▼ 閉会

「スコープ 3 の概要と 削減活動の可視化について」



2021年10月27日

会社概要

株式会社ウェイストボックスの概要は以下の通りとなります。

| 項目 | 内容 |
|--------------|--|
| 会社名 (URL) | 株式会社ウェイストボックス https://wastebox.net/ |
| 設立年月日 | 2006年2月2日 |
| 拠点 | 本社：愛知県名古屋市中区栄2-6-1 RT白川ビル2階 支社：東京都中央区日本橋2-1-17丹生ビル2階 |
| 電話番号/FAX | 052-265-5902/052-265-5903 |
| 資本金 | 4,500万円（資本準備金含む） |
| 事業内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・G H G 排出量（SCOPE3）算定支援 ・製品・サービスの排出量調査（LCA、CFP） ・排出権権利化代行（Jクレジット創出） ・カーボン・オフセットプロバイダー事業 など |
| 代表取締役 | 鈴木修一郎 |
| 株主 | 鈴木修一郎（創業者） ENEOSイノベーションパートナーズ合同会社・他 |
| 従業員数 | 15名 |

代表取締役プロフィール



1975年埼玉県生まれ。早稲田大学教育学部卒。事業会社を経た後、2004年環境コンサルティングを専門とする(株)リサイクルワン（現(株)レノバ）入社、主に不動産における環境デューデリジェンス業務に従事。2006年2月独立し、(株)ウェイストボックスを設立。2018年からは、環境省が実施する脱炭素経営による企業価値向上促進プログラムにおける支援窓口を担当する。担当業務は、SCOPE 3と呼ばれる国際規格に対応したCO₂排出量把握。これらは、ESG投資やSDGsにおける主要指標となっているため、大手企業を中心に近年問い合わせが急増している。

「メンバープロフィール」

小川 晶子 LCAエキスパート

金融機関にて勤務後、2010年に(株)ウェイストボックスに入社。国内のクレジット制度における削減事業計画書の作成及び申請サポート業務を数多く担当。現在はLCA手法を用いた排出量調査、サプライチェーン排出量等のCO₂算定業務を主に担当している。

山本 裕子 LCAエキスパート

重工業メーカーにてエネルギー・航空分野の営業・プロジェクト管理に従事。英 Nottingham University Business School MSc Entrepreneurship Sustainability pathway修了後、(株)ウェイストボックスに入社。主に、サプライチェーン排出量（Scope1,2,3）算定支援、CDP質問書回答支援等を担当している。



CO₂の見える化で社会を変える

産業革命以降、私達の生活は化石燃料に大きく依存しています。
化石燃料の消費は、気候変動という形で地球に大きなダメージを与えています。

私達は、人の生活が地球に与える全てのダメージを可視化し、人類としてとるべき
選択肢を明らかにします。



起業への想い

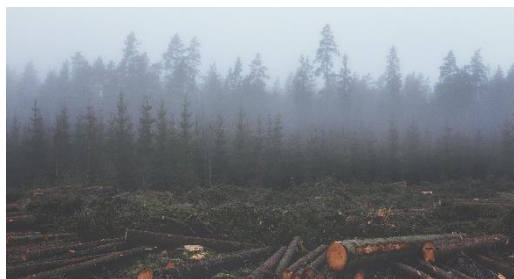


環境分野に特化した 新たなビジネスの創造を目指す

創業はあいち万博の翌年。これからは環境
そんな雰囲気のもと、起業しました。



探検隊の隊長として、
中国四川省の奥地へ



原始林が伐採されて
いく現実を知る



人の生活 地球環境

株式会社ウェイストボックス
代表取締役 鈴木修一郎



CDP 認定コンサルティングパートナー



Wastebox, Inc.

Climate Change Consultant, Japan

We strive to achieve our mission of delivering social change through helping companies to measure their carbon emissions and set and implement ambitious targets.

Tips for success

- ▶ **Measure:** measure your corporate carbon footprint across the supply chain.
- ▶ **Set a target:** set science-based emission reduction targets in line with SBTi criteria.
- ▶ **Reduce:** reduce emissions through renewable energy, energy efficiency, etc. and track the progress.
- ▶ **Offset:** offset unavoidable emissions by supporting external emission reduction/removal projects.
- ▶ **Communicate:** communicate a series of actions and the results.

Wastebox, Inc., an accredited CDP climate change consultancy solutions provider in Japan, provides consulting services related to the measurement and management of GHG emissions.

Our name "Wastebox" literally means rubbish bin. Wastebox, Inc. was established in 2006 with the hope of transforming a large amount of disposed rubbish or to put it another way, 'resources', that were just below market standards but still usable, into environmentally friendly products that can be reused and add more value to society. This could be as simple as the use of vegetables which are still fresh but don't meet the cosmetic standards of supermarkets, or more innovative upcycling such as making bags using car-leather offcuts disposed from automobile factories.

By using Life Cycle Assessment (LCA), Wastebox is committed to measuring and visualizing environmental impacts associated with all stages of a product life cycle, such as raw material acquisition, production, distribution, use and end-of-life. We then identify the product's environmental friendliness and communicate the results to consumers and society.

Building on this experience, we started offering services in measuring the environmental impacts of clients' products, services and business activities with a particular focus on GHG emissions. We now have more than ten years of experience in this field. With the urgency of climate action in the private sector becoming even more apparent, we broadened our services to consultancy in domestic carbon credit schemes, carbon offsetting and various government-contracted environmental programs. For example, we are a registered provider of the J-credit Scheme in Japan.

To tackle global environmental issues, it is essential that both consumption and financial activities become environmentally sustainable, so that the economy and the environment coexist in balance.

We believe that it is important for corporations to understand their own environmental impacts and communicate them to society. Data and transparency sit at the heart of this. We strive to achieve our mission of delivering social change through helping companies to measure their carbon emissions and set and implement ambitious targets.

A company's environmental impact does not end with its direct operations. For the past few years, Wastebox has particularly focused on helping corporations to measure and manage their GHG emissions across supply chains (Scope 1, 2, 3). We believe that a cycle of carbon management (see our tips for success) is very important for corporate climate change strategies and we adapt our services to support companies at different stages in their journeys.

Ambitious corporate action is essential to achieve the targets of the Paris Agreement. Wastebox, as an expert in measuring GHG emissions and other environmental impacts, contributes to the transformation of society into a decarbonized, sustainable society through supporting corporate carbon management.

Mr. Shuichiro Suzuki, CEO

28

気候変動専門のコンサルティングパートナー

本日の議題

○スコープ 3 の削減に取り組む皆様からのご質問

スコープ 1、2 は S B T で設定した基準年排出量からの削減の計算式は理解できる。

一方でスコープ 3 は単純に基準年からの排出削減を計算式で表せない。どうしたらよいのか？

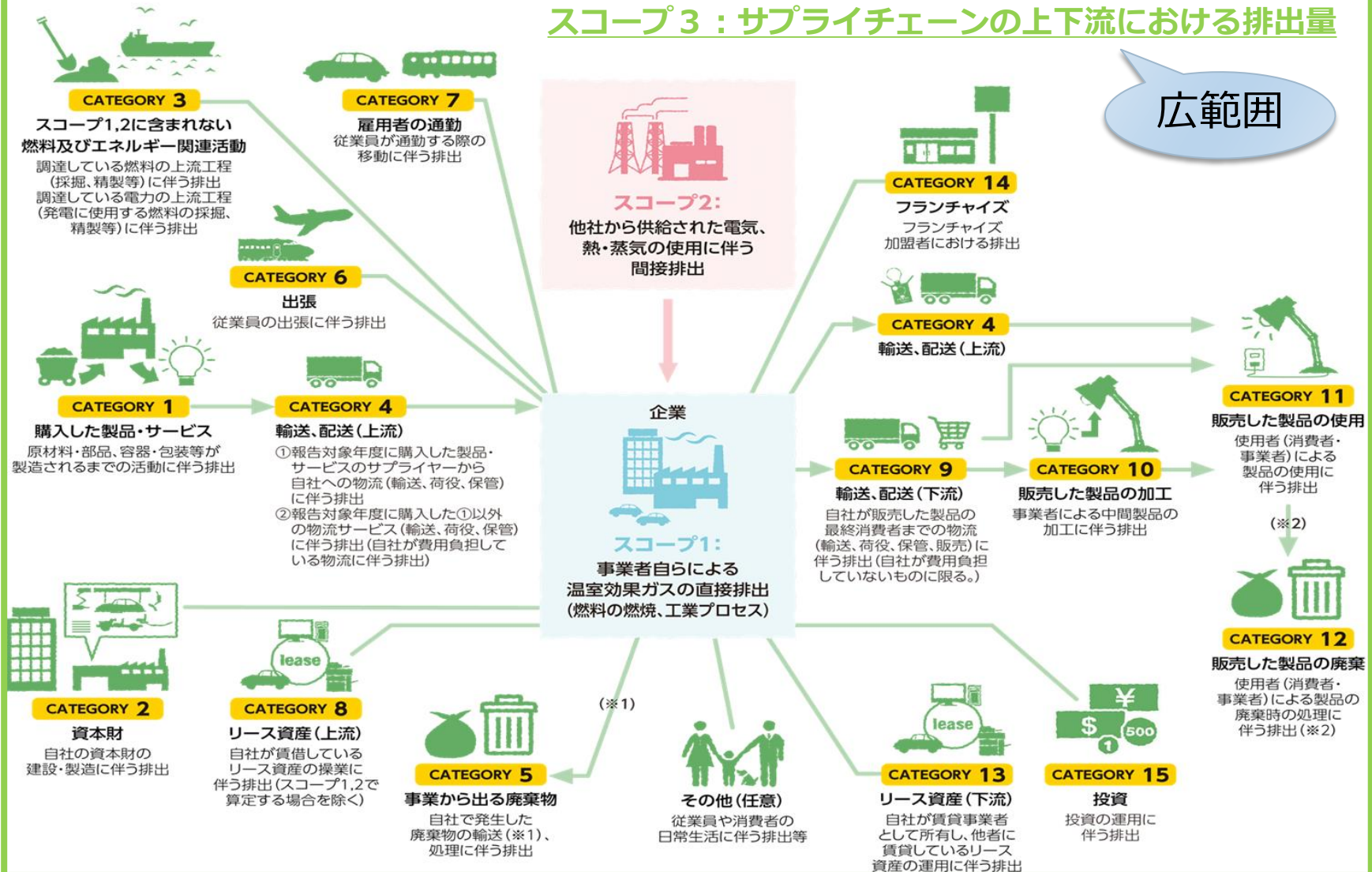


スコープ 3 特有の算定手法に合わせた削減見える化の手法があります。

スコープ1,2,3 サプライチェーン排出量とは

スコープ3：サプライチェーンの上下流における排出量

広範囲



スコープ3の15カテゴリー

| | カテゴリー | 項目 | 該当する項目 | |
|----|-------|-------------|----------------------------------|-----------------------|
| | | | | |
| 上流 | 1 | 購入した製品・サービス | ・ 原材料、仕入れ商品の調達 | ・ 間接調達（ソフトウェア、備品、資材等） |
| | 2 | 資本財 | ・ 生産設備の増設 | |
| | 3 | エネルギー関連活動 | ・ エネルギー関連活動 | |
| | 4 | 輸送・配送（上流） | ・ 調達物流、出荷輸送 | |
| | 5 | 事業から出る廃棄物 | ・ 外部委託の廃棄物 | |
| | 6 | 従業員の出張 | ・ 従業員の出張 | |
| | 7 | 雇用者の通勤 | ・ 従業員の通勤 | |
| 下流 | 8 | リース資産（上流） | ・ 自社が賃借しているリース資産の稼働 | |
| | 9 | 輸送、配送（下流） | ・ 出荷輸送（荷主輸送） | |
| | 10 | 販売した製品の加工 | ・ 事業者による中間製品の加工 | |
| | 11 | 販売した製品の使用 | ・ 使用者による製品の使用 | |
| | 12 | 販売した製品の廃棄 | ・ 使用者による製品の廃棄処理 | |
| | 13 | リース資産（下流） | ・ 他社に賃借しているリース資産の稼働 | |
| | 14 | フランチャイズ | ・ 自社が主宰するフランチャイズの加盟者のSCOPE1,2排出量 | |
| | 15 | 投資 | ・ 株式投資、債券投資 | ・ プロジェクトファイナンス |

スコープ3の位置づけ

脱炭素・
ニュートラル化

＜現状把握＞
スコープ1,2,3
排出量把握

サプライチェーン含めた把握

＜削減活動＞
省エネ・再エネ
中和

- ・活動量の削減
- ・排出係数の改善
- ・大気中のCO2の除去

＜目標設定＞
S B T水準の
削減目標



K P I の設定と進捗管理

＜情報開示＞

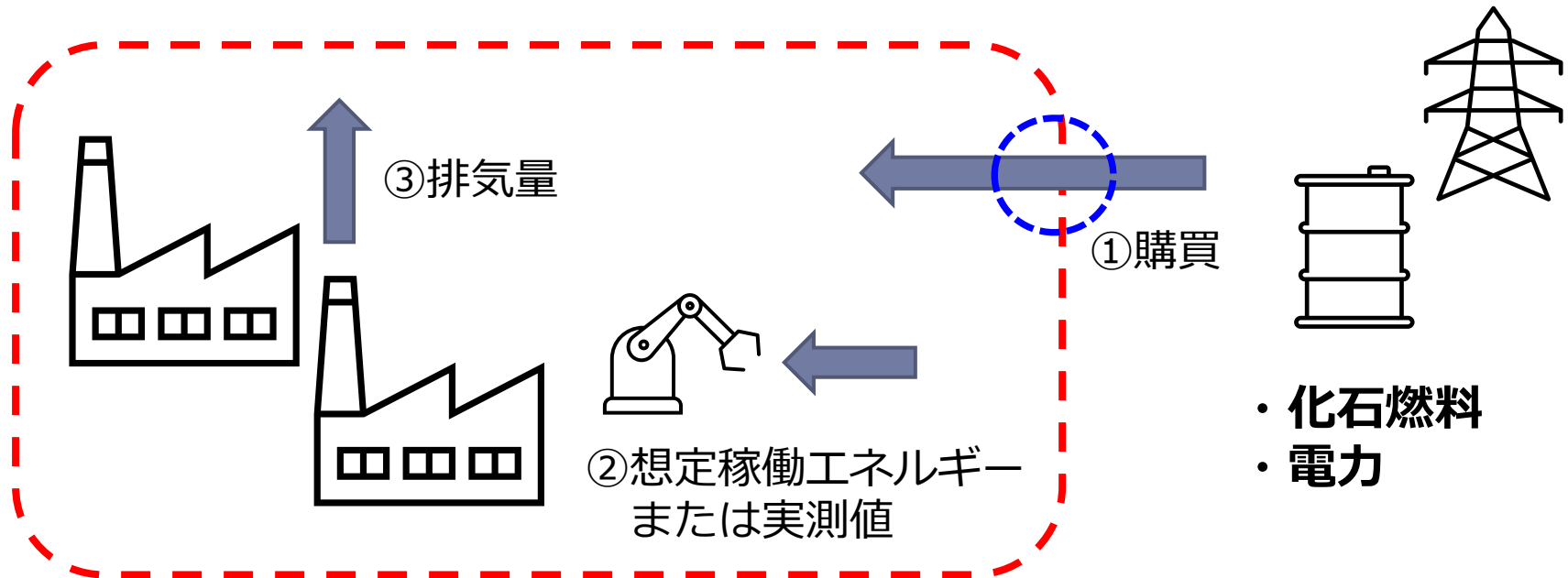
- ・排出量情報
- ・目標設定・達成状況
- ・削減活動進捗状況



T C F D リスクと機会の把握

活動量の認識の仕方 スコープ 1,2

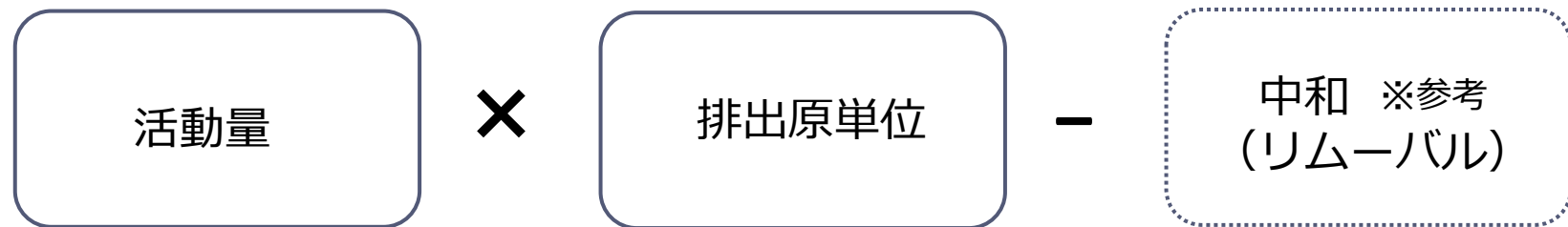
スコープ 1, 2 の場合



⇒モニタリングポイントは、通常【購買】のポイント
 購買伝票から化石燃料及び電力使用量を拾い活動量とする。

削減の可視化 スコープ^{1,2}

スコープ^{1,2}の場合



【省エネ】

- ・ 高効率ボイラー
- ・ LED化
- ・ 生産効率化

【再エネ】

- ・ 太陽光発電
- ・ 風力発電
- ・ 証書購入

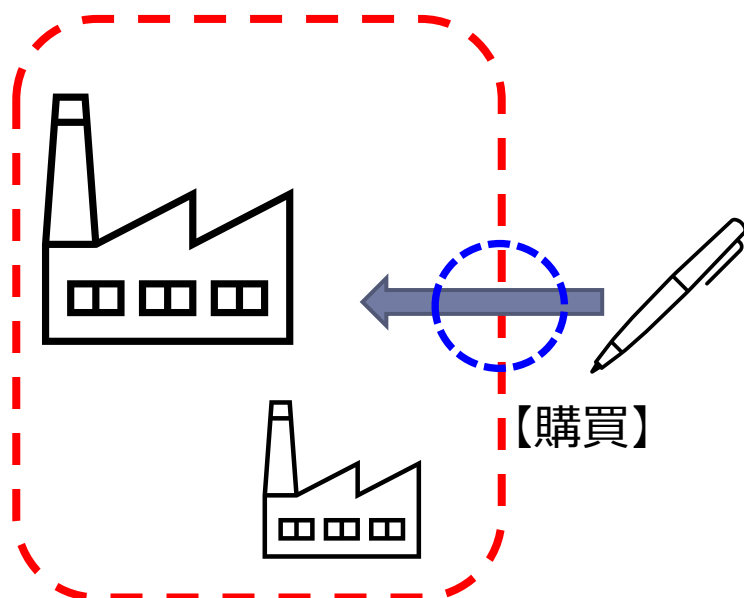
【中和】

- ・ 森林吸収
- ・ ブルーカーボン
- ・ D A C、C C S

⇒活動量or排出係数 を下げたことを可視化する。

活動量の認識の仕方 スコープ3

スコープ3 カテゴリー1の場合



【パターン①】 購買金額
文房具 100円

計算式 : 購買金額×排出原単位
メリット : カバー率を高めやすい
デメリット : サプライヤーの努力を反映できない

【パターン②】 LC-CO2値
PP樹脂 40 g
PE樹脂 10 g
金属部品 10 g
インク 5 g
加工エネルギー 0.1kWh

計算式 : 素材重量×排出原単位
エネルギー量×排出原単位
メリット : 詳細なデータが取れる
デメリット : 前提条件が同一でないと比較できない

【パターン③】 報告値
スコープ1,2 案分値
主要なスコープ3 案分値

計算式 : サプライヤーからの報告値
メリット : 比較可能
デメリット : サプライヤー側の入力値に一定の精度が必要

⇒モニタリングポイントは、【購買】のポイント（同一）
活動の定義により活動量は異なる。※単純比較できない

削減の可視化 スコープ³

スコープ³ カテゴリー 1 の場合



活動量

×

排出原単位

【パターン①】 購買金額
文房具 100円



(?) 購買金額の削減

【パターン②】 LCA値
PP樹脂 40 g
PE樹脂 10 g
金属部品 10 g
インク 5 g
加工エネルギー 0.1kWh



調達重量の削減
加工エネルギーの削減

リサイクル率の向上
再エネ率の向上

【パターン③】 報告値（一次データ）
スコープ^{1,2} 案分値
主要なスコープ³ 案分値



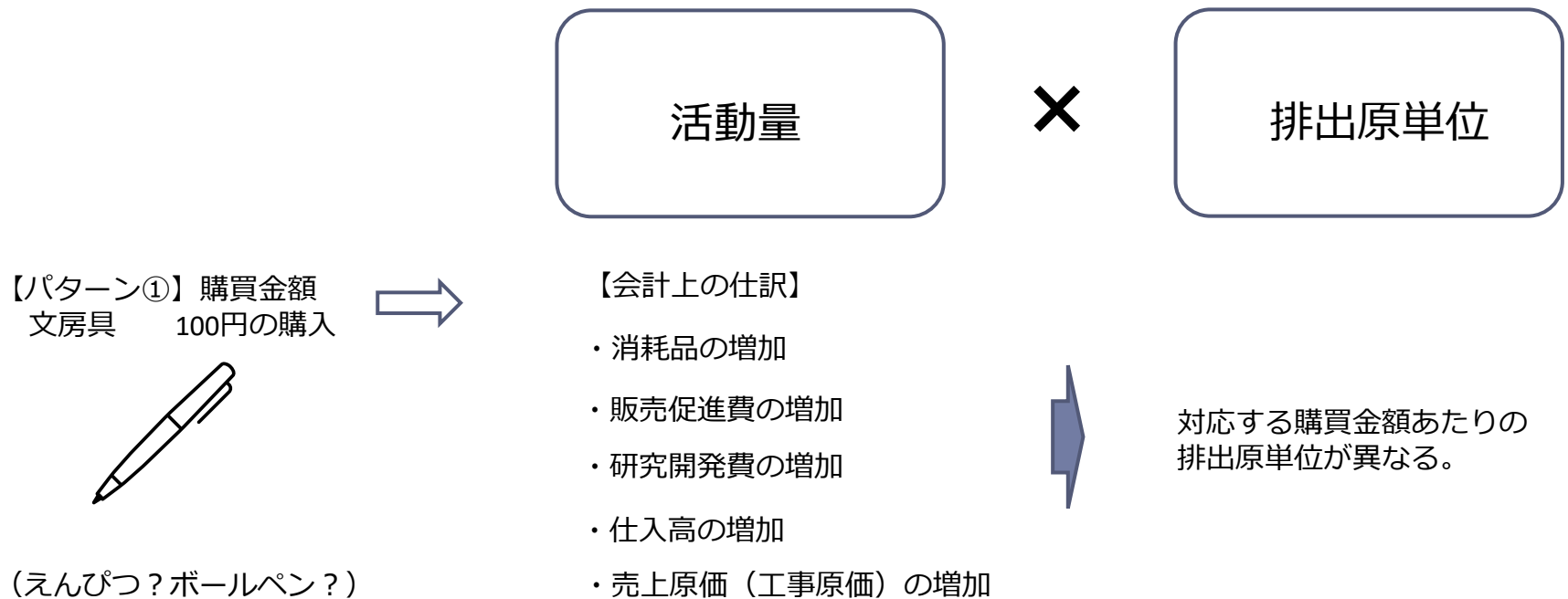
サプライヤーのスコープ^{1, 2}の削減
サプライヤーへのS B T水準の目標設定促し率

⇒活動量or排出係数 を下げたことを可視化する。

※但し活動の定義毎に、計算ロジックは異なる

パターン① 購買金額あたりの排出量とは

サプライヤーの努力を反映できない。そもそも仕訳次第。

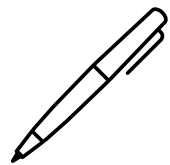


⇒ 会計上の【仕訳】により排出原単位が異なる。

※財務会計上は、どの科目に計上しても金額は変わらないが、炭素会計は変化する。

パターン② LC-CO₂の排出量とは

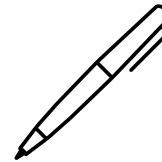
前提条件（機能単位※）を揃えるのは難しい。



【パターン②】LC-CO₂値

| | |
|---------|--------|
| PP樹脂 | 40 g |
| PE樹脂 | 10 g |
| 金属部品 | 10 g |
| インク | 5 g |
| 加工エネルギー | 0.1kWh |

=



【パターン②】LC-CO₂値

| | |
|---------|--------|
| PP樹脂 | 40 g |
| PE樹脂 | 10 g |
| 金属部品 | 10 g |
| インク | 5 g |
| 加工エネルギー | 0.1kWh |

【機能単位】

- ・3色ボールペン
- ・インクカートリッジ式
容量2ml
- ・耐用年数10年

≠

【機能単位】

- ・5色ボールペン
- ・インクカートリッジ式
容量2.5ml
- ・耐用年数1年

⇒前提条件（機能単位※）をそろえる必要がある。
実際には難しい。

※LCAを実施するにあたって、前提条件として整理する製品やサービスの機能を定量化するための単位のこと。
ボールペンの場合、色数や、インク充填量、耐用年数などが考えられる。

働きかけの方向性

サプライヤーへの働きかけをどう定量的に把握するのか？

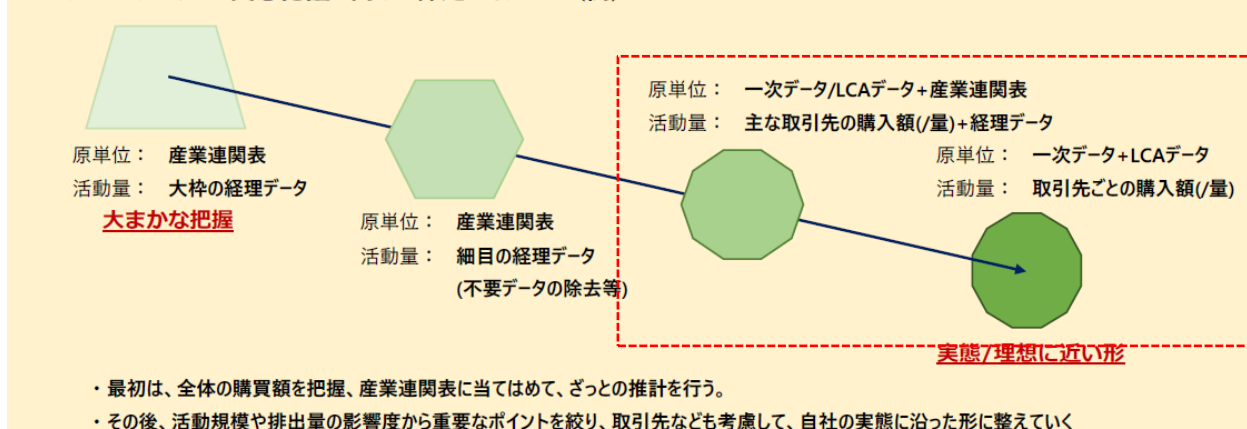
スコープ3の算定と方向性



同一算定法の経年比較をするよりも、実態に近づけていくことが優先

最初はできるところから、2回目以降に算定の確かさや粒度を高めていく。
(前年比で増えた減った、は重要度がさほど高くない。長期的に減らせる方向性が出せるかが大事。)

スコープ3 カテゴリ1の実態把握に向けた算定のイメージ (例)

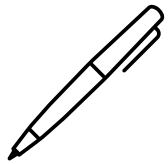


9

⇒購入金額あたりの排出原単位を毎年見直すアプローチ！

パターン③ 報告値の排出量とは

毎年購買金額あたりの排出原単位を下げていく。



活動量

×

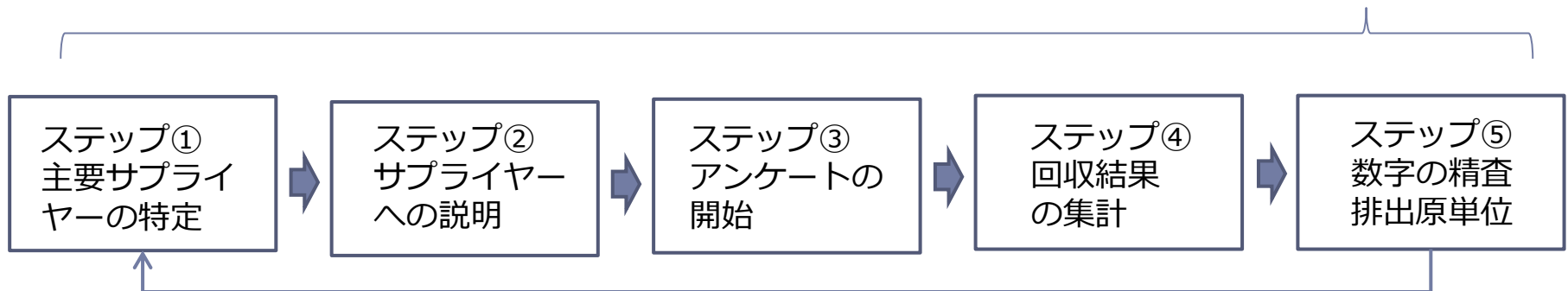
排出原単位

【パターン①】 購買金額
文房具 1億円



~~(?) 購買金額の削減~~

排出原単位の削減



購買金額あたりの サプライヤーのスコープ1, 2 及び主要なスコープ3 の 一次データ 取得をし、排出原単位（購買金額単位あたり）を毎年把握していく。

| 調査対象 | | | | | | | |
|------|-------|-------|----|----|----|----|------------------|
| 商品名 | 仕様(縦) | 仕様(横) | 線じ | 部数 | 頁数 | 用紙 | 1部あたり 平均重量(g) |
| xxx | | | | | | | |

| GHG排出量データ | (1)原材料調達段階 | (2)生産段階 | (3)流通段階 | 合計 |
|--------------------|------------|---------|---------|---------|
| GHG排出量 (kg-CO2e/部) | | #DIV/0! | #DIV/0! | #DIV/0! |

| (1)原材料調達段階 | | | | | | | | | |
|------------|-------|-------|-----|----|----|----|----|----|----|
| 工程 | プロセス名 | 原材料種類 | 活動量 | | 単位 | 備考 | 備考 | 備考 | 備考 |
| | | | 数量 | 単位 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | |

データ回収フォーマットの作成・集計・精査

18

今後の課題

購買金額あたりの排出原単位を把握するためには

- ・ どうやってサプライヤーに意思を伝え理解していただくのか？
- ・ 具体的に何を聞けばよいのか？
- ・ サプライヤーからの報告値は正しいのか？
- ・ 間に商社が入る時にはどうすればよいのか？
- ・ 排出原単位を毎年作るアプローチは第三者検証に耐えられるのか？

⇒現状ではまだ様々な課題がある。

まとめ：削減の可視化の方向性

- ・ スコープ 3 算定においては、複数の活動量認識手法があり、単純に比較できない。
- ・ スコープ 3（主にカテゴリー1）削減の主張を行うためには、購買金額あたりのサプライヤーの一次データの取得が有効



サプライヤーとの協働を反映した排出原単位の作成

⇒ C D P サプライチェーンプログラムが広まることで、あらゆる企業がスコープ 3 を協働で削減に取り組み、その努力の可視化は可能になると考えます。

ご清聴ありがとうございました



株式会社ウェイストボックス

〒460-0008

愛知県名古屋市中区栄2-6-1 RT白川ビル 2階

電話：052-265-5902

担当：鈴木

プログラム



- ▼ オープニング： CDP 高瀬 香絵
- ▼ スコープ3の概要と削減活動の可視化について：
株式会社ウェストボックス 鈴木 修一郎 様
- ▼ 企業の実情に沿ったスコープ3の把握と削減に向けて：
CDP 河村 渉
- ▼ CDPサービスのご紹介：CDP 松川/河村
CDP サプライチェーン・プログラム
CDP RS及び認定パートナー
- ▼ 質疑応答
- ▼ 閉会

企業の実情に沿った スコープ3の把握と削減に向けて

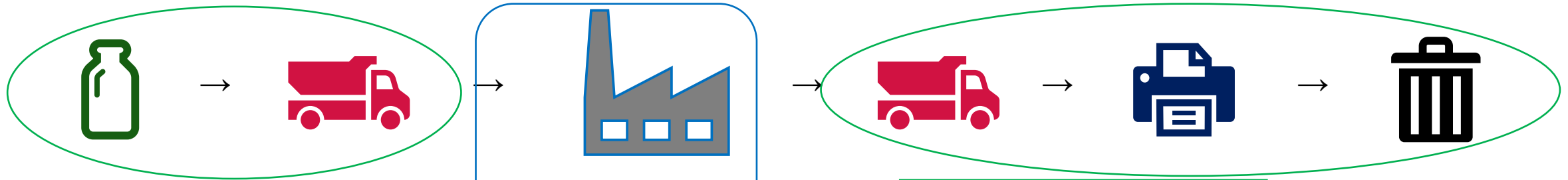
2021年10月27日

CDP 河村 渉

スコープ3の把握について

スコープ3 とは何か、何のために把握するのか

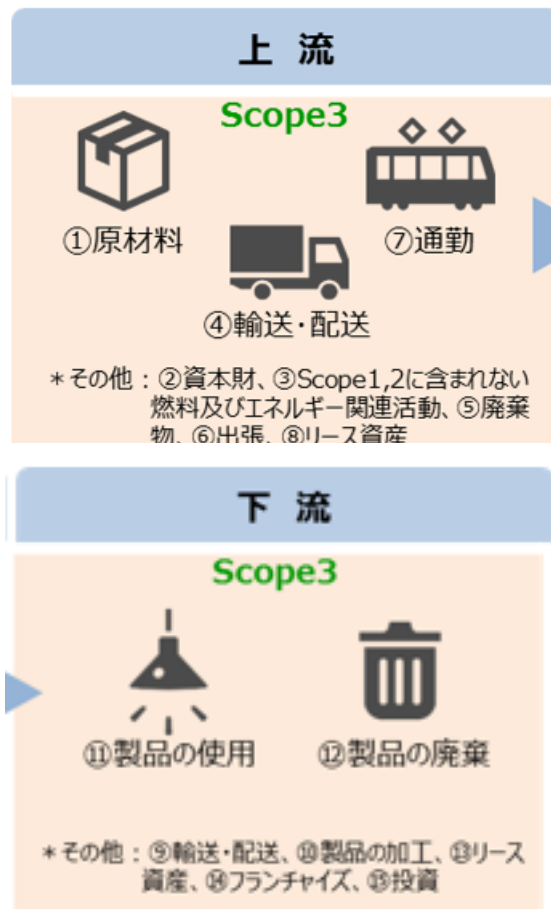
企業にとって、自社の直接の活動より、その周囲におけるGHG排出が多いことが大半と言える。



自社の直接関与する排出（スコープ1, 2）に加え、間接的に関与する排出を可視化し、
長期的には可能な限り削減できるようにするため、算定を行う。

スコープ3の算定・把握により、企業は自社の事業活動が、手の届かない範囲において排出にどの程度影響し、また自社の活動の変化により上流／下流においてはどのような変化をするかを推測することが可能になる。これを元に、将来的な削減・脱炭素化を目指していく。

スコープ3の排出量算定について



- ・ 15カテゴリ(分類)、自社が購入/自社関与範囲までの排出が「上流」、自社の手を離れた/社会に出た後の排出が「下流」と呼ばれる。

基本的な算定方法： Σ (活動量 × 排出原単位)

- 購入量
- 金額
- 人/台数

活動量



排出原単位

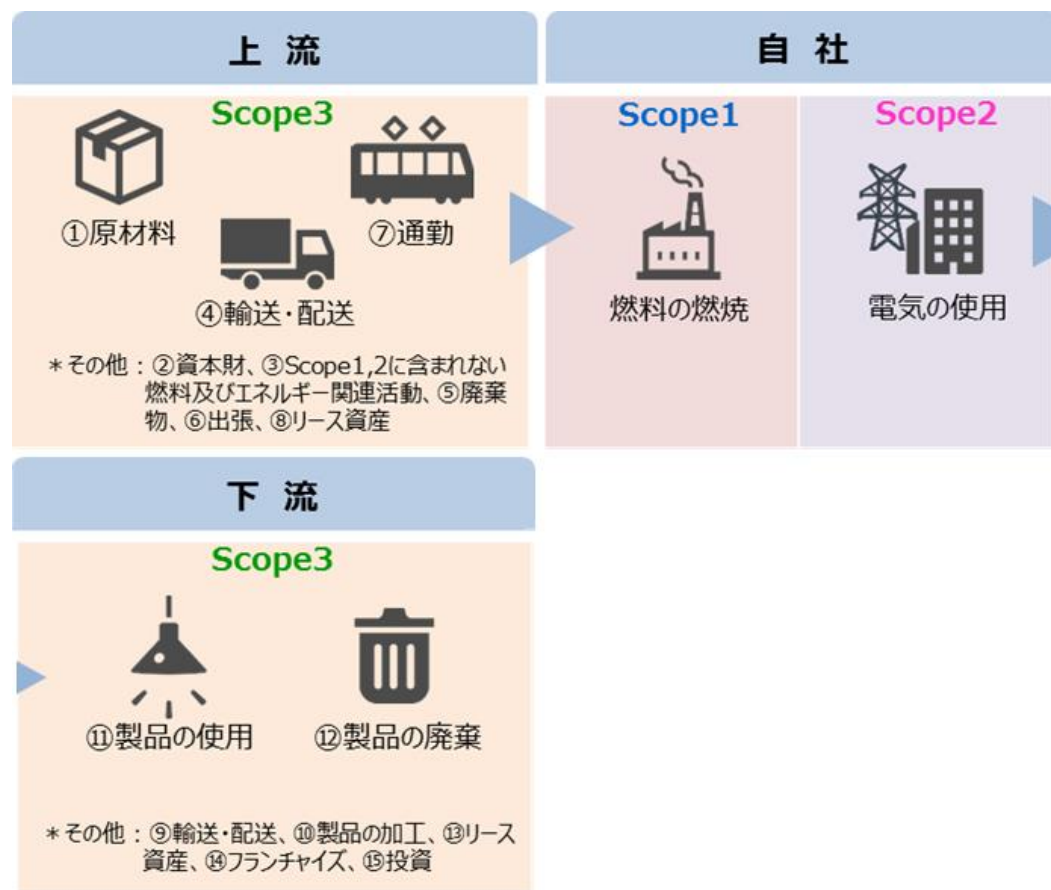
〇〇あたり
CO₂排出量

排出原単位は、環境省排出原単位データベース（各カテゴリ対応）、LCA算定用データベース(IDEA等)、業界のデータなどあり。
これに対して、自ら収集・把握した個別データを「一次データ」と呼ぶ。
要素ごとに自社の活動量を把握し、排出原単位を掛け合わせ、合計する。

図：環境省資料より

スコープ3 とスコープ1, 2との違い

排出量算定方法が固定的か流動的かも違う



・ スコープ1, 2は、自社の活動が直接、排出量に影響。使用したエネルギー量から排出量を理論的に算出することは可能である。

： 毎年の排出量の把握、比較が可能
基準年、目標年を定めて排出量の削減に取り組む形

・ スコープ3は、基本的に自社の範囲(バウンダリ)外の排出になるため、原単位や関連データは直接把握しづらい。ゆえにGHG排出量換算も難しい。

実態に合わせるために、適宜算定を見直す必要あり。

： 現時点では、現状の把握→削減への道筋を検討、を繰り返すイメージ
基準年の設定においては、更新など柔軟な対応も必要。(原単位選択/算定変更の影響が大きいため)

スコープ3の特徴、限界、ポイント

スコープ3算定の多くにおいて、
絶対の正しい方法、値は存在しません。

気を付けるべき点：

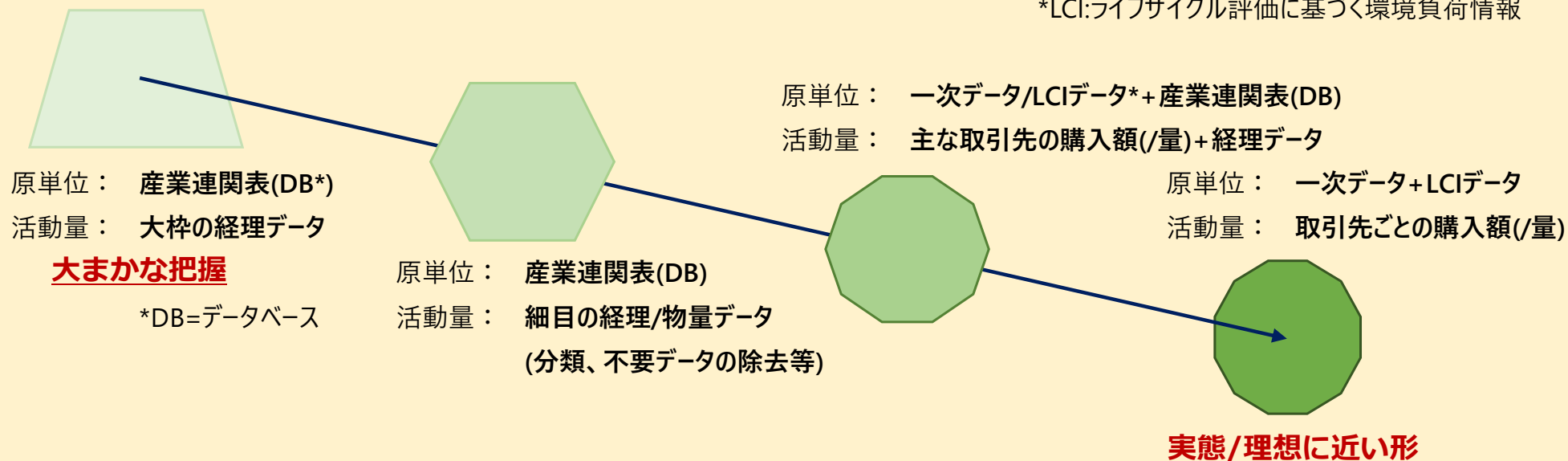
- ・正確な算定は困難...原単位データに大きく影響され、スコープ1, 2よりも信頼性は劣る
- ・ダブルカウント等の発生...他社算定のスコープ1,2や3と重複する
- ・直接比較はできない... 各カテゴリ間や、自社と他社の算定では、精度・把握の範囲はまちまち
- ・係数等により大きく変化... 参照するデータの原単位変更や算定法の変更（例:金額→物量ベース）により、算定値が大きく変わることがある
- ・ スコープ3は、単に数値化することが目的ではなく、
自社にとってどのカテゴリが重要か、削減に取り組むことが可能かの把握が重要
- ・ 全容及び規模を把握し、削減に向けた方向性を示せるようにすることも必要

実態把握・算定の方法

スコープ3の算定と継続時の方向性

スコープ3 カテゴリ1の実態把握に向けた算定のイメージ（例）

*LCI:ライフサイクル評価に基づく環境負荷情報



- ◆ 最初は、全体の購買額を把握、産業連関表DBに当てはめて、ざっとの推計を行う。
- ◆ その後、活動規模や排出量の影響度から重要なポイントを絞り、取引先なども考慮して、自社の実態に沿った形に整えていく

同一算定法の経年比較をするよりも、実態に近づけていくことが優先

最初はできるところから、2回目以降に算定の確かさや粒度を高めていく。
(1年単位の減った増えた、は重要度がさほど高くない。長期的に減らせる方向性が出せるかが大事。)

どのカテゴリが自社にとって重要か？

1. 自社にとって重要なカテゴリを確認する . . . **重要＝算定をより実態に近づける必要性高**

(例) * Cat.=カテゴリ

- 原料を仕入れ製造/販売を行う会社 . . . Cat. 1, 4
- 自社製品の使用時にエネルギーを使用 . . . Cat. 11
- 不動産（リース）/フランチャイズ本部 . . . Cat.13 / Cat.14
- サービス系で従業員の人数や移動の割合が多い . . . Cat. 6, 7

排出量の顕著に小さいカテゴリは、重要性は低いとしても構いません。
(例：スコープ3全体の1/100以下)

2. 削減・管理を重点的に進めるために、**関連情報を整理、利用データの精度向上。** **特に原単位の「一次データ化」を図る**

*** 自社にて最も重要なカテゴリは何か、確認してみましょう！**

「一次データ」とは



一次データ：算定する事業者が自らの責任で収集するデータをいう。

具体的には、自社で測定をしたデータや、他社への聞き取り等調査を行って収集したもの。

⇔ **二次データ**：原単位データベースや業界が標準としているデータ

* 二次データは、毎年の情報更新が望めないケースも多い



＜一次データの例＞

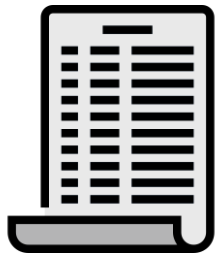
- 取引先の自社関連排出量の直接把握・・・取引先の自社関連スコープ1, 2 + 可能ならスコープ3(上流)
：購入物品に直結した排出量把握が望ましいが、難しい場合は会社全体の排出量を取引額にて割り当てる方法も
- 自社製品の消費電力量・・・自社内テスト/調査時の消費電力、過去製品からの省エネ率等
：使用年数(推計)、使用する国/地域等の設定も必要
- リース先/フランチャイズ店の排出量・・・拠点ごと排出量や、一定数の把握の上での面積基準の原単位

* 一次データは、手間はかかるが毎年更新可能 = 削減として表せる

一次データ利用の特徴:

良い点

- ▼ 実態に沿う詳細なデータ
- ▼ 毎年の進捗を確認できる
- ▼ 取引先の実績や、協働の成果が排出量にリンクする
- ▼ 排出を減らすために購買量/金額を減らさなくてもよい



難しい点

- ▼ 直接のデータ収集,更新が必要
- ▼ 収集データの意味を取引先・自社が理解する必要がある
- ▼ 企業の業績等状況により、原単位が大きく変動すること



一次データを利用した算定

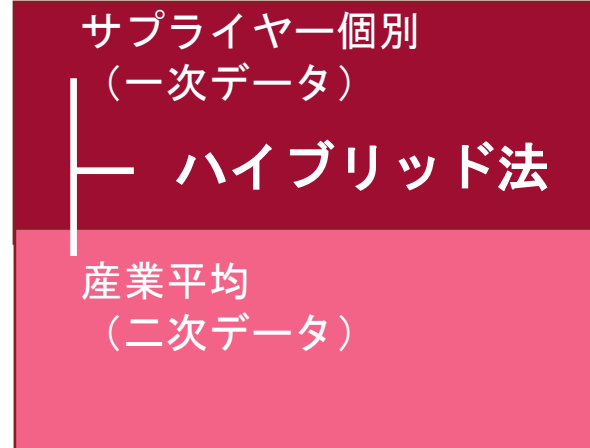
1. 対象の活動における一部～大半にて一次データが得られる場合、そのデータを全体に適用する
(＝得られた量の割合において割り戻して、全体量に換算)
⇒ 実態と連動した数値になる傾向。全体が一次データに連動する。
2. 一次データを利用できるものと、利用できないものの二次データ利用による計算の合算
⇒ 一次データ利用の分に応じ、企業の実態と連動する。まだ取得できない部分が多い場合に推奨。
(ただし算定結果の不確かさ(データの粗さ)は増す)
3. 指標となる[企業/活動/品目]の算定値を利用し、全体量に換算して適用する
⇒ 特定の[企業/活動/品目]の割合が大半／原単位が大きい場合。
把握しやすく効果的に削減取組みが可能。(除外する部分は重要でない必要がある)

自社の状況から望ましい方法を選択し、その後も情報の拡充に伴い更新・変更する

「ハイブリッド法」、「全体換算法」

：一次データを利用した算定方法

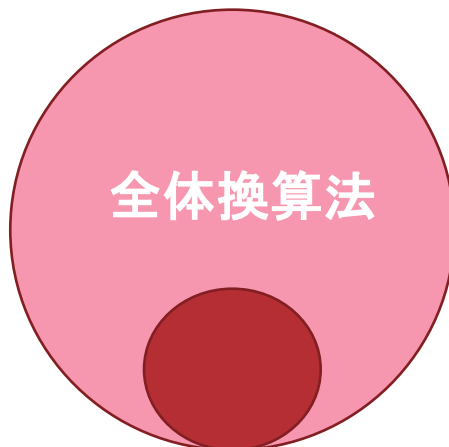
(前ページ2)



＜カテゴリ1のイメージ＞

1. サプライヤー等にデータ提供依頼
 - ・ 把握可能 → 得られた原単位(一次データ)を利用
 - ・ 把握不可/データの正確性に疑問
→ 産業平均(データベース)の原単位を選択
2. 一次データまたは産業平均データ利用の決定
3. それぞれの購買金額/量を原単位にかけ、合算する。

(前ページ1, 3)



1. 意図した範囲の一次データ原単位を取得
2. 原単位に購買金額/量をかけて、対象範囲の排出量を計算
3. 2の排出量を活動量の割合に応じて割り戻す ⇒ 全体量に換算
(例：対象が40%の場合、2.にて計算された排出量／40 × 100)

ハイブリッド法による計算

(モデル：製造業におけるカテゴリ 1 の算定)

設定：A~E社から材料a~eを購入。A, B社は取引先の自社関連排出データ(スコープ1+2および3)を直接入手可、C~E社からはデータが得られず、C社材料はB社ものと同等品のため、便宜的にB社の原単位を採用する。
 その他は、環境省の産業連関表の原単位(:環境省DB)を使用。
 購入先が一定しない／不明な材料x, yもある。

1. 全体像およびa~eの購入量(/金額)を把握
2. 会社毎および材料x, yに当てはめる原単位
(購入量/金額ベース) を決定
3. それぞれの排出量を算出 (t-CO_{2e}換算)
4. 各項を合計：1140t-CO₂ = 200+80+60+120+100+300+280
5. カテゴリ 1 の排出量として、1140t-CO₂ を報告する
(そのうち、200+80 = 280tは一次データに基づく算出と言える。)

| 会社/材料 | 購入量/ 金額 | 原単位 (把握方法) | 排出量 |
|---------------|------------------|---|------------------------------|
| A社 a | 1000 kg | <u>0.2 t-CO_{2e}/kg</u> (直接把握) | <u>200 t-CO_{2e}</u> |
| B社 b | 800 | <u>0.1</u> (直接把握) | <u>80</u> |
| C社 β (b類似) | 600 | 0.1 (B社準用) | 60 |
| D社 d | 400 | 0.3 (環境省DB:d) | 120 |
| E社 e | 200 | 0.5 (同上:e) | 100 |
| その他 x, y | x: 500 y: 700 | 0.6 (同上:x) 0.4 (同上:y) | 300 280 |

”CDP サプライチェーン質問書“においては、
直接取引分に相当する排出量を
取引先に質問することが可能です

CDPでの回答およびデータの利用 良くある質問

原単位データ利用のためのCDP回答の活用

(C6.10) 報告年のスコープ1と2の全世界総排出量について、単位通貨総売上あたりのCO2換算トン単位で詳細を説明し、貴社の事業に当てはまる追加の原単位指標を記入してください。

原単位数値

4.64e-6 :1通貨単位における原単位 (ここでは4.64t /百万円)

指標分子(スコープ1および2の合計総排出量、CO2換算トン)

1020000

指標の分母

売上額合計

分母：総量

2200000000000

その年における売上額
(通貨単位：円など)

使用したスコープ2の値

マーケット基準

前年からの変化率

1.2

変化の増減

減少しました

変化の理由

・ ・ ・

前年からの原単位増減率もわかります
(自主開示ベース)

C6.10の質問より、その企業の年間排出量（スコープ1,2）と売上額あたり原単位が把握できる。（通貨単位）



これを取引金額にかけることで、取引先における自社関連の排出量を概算できる。
(その会社の一般的な製品を買っている場合)

※ サプライヤーに加え、輸送業者の排出原単位把握にも利用が考えられる。

CDP質問書における回答記載について



(C6.5) 貴社のスコープ3全世界総排出量の算定について、除外対象の説明を含めつつ開示してください。

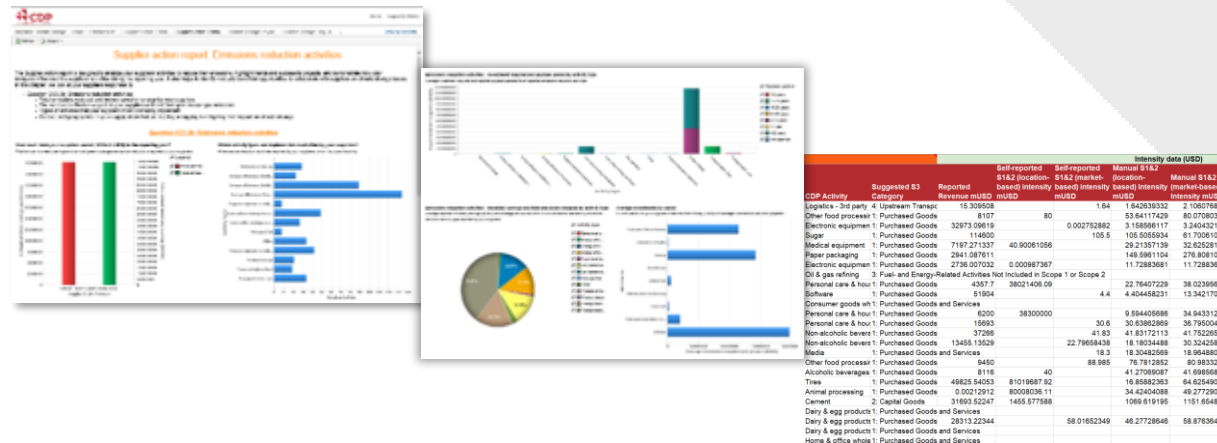
| スコープ3 カテゴリー | 評価状況 | CO2換算トン | 排出量計算方法 | サプライヤーやバリュー チェーン・パートナーから得た データを用いて計算 された排出量の割合 | 説明 |
|-------------------|---|---------|---|---|--|
| (説明用) | 選択肢： <ul style="list-style-type: none">● 関連性あり、算定済み● 関連するが、算定していない● 関連性なし、算定済み● 関連性なし。理由の説明● 関連性を評価していない | 数値記入欄 | 文章記入欄 <div>関連すると考えるが、まだ算定できていない 状況を把握でき算定したが、その量は自社の スコープ3算定においてわずかで重要性が低い 自社のスコープ3算定において発生しない、 またはごくわずかで算定の必然性がない まだ確認ができておらず、関連するかどうかも わからない</div> | 数値記入欄 [0～100、 最大小数点第2位] サプライヤー等から 一次データを取得でき、 算定した割合。 (下記の場合、 (200+80) ÷ 1140 =24.56) | 文章記入欄 ・ 関連性がないとする場 合の根拠等説明（必須） ・ 計算方法についての補 足説明（任意） |
| 購入した商品 およびサービス | ● 関連性あり、算定済み | 1140 | 当年に自社の購入した量および金額に基づき、取引先 のデータを得られたものはその原単位を使用、得られ なかったものについては、環境省提供の"排出原単位 データベース"(Ver.3.1)を利用して算定した。 ただし、海外データサービス購入のうち排出量算定の 難しい分について、適切な算定ができず算定できてい ない。これは全体の金額の10%未満である。 | 24.56 (%) | 原単位データの取得にお いては、CDPサプライ チェーンプログラムを利 用した。 算定できていない排出量 は今後算定を目指す。 |

CDPサプライチェーンプログラム（概要）



CDPが企業と連携し、登録企業のサプライヤーにCDP質問書に基づく情報開示を求めることで、サプライチェーン全体での取り組みを進めるプログラム。自社の取引先に質問書を送付し、回答をもらうことにより、各種環境関連データや目標、取組度合いなどを把握可能。

- 気候変動（／水／森林）の質問書により、多数の取引先に世界標準的な形式で情報提供を依頼できる
- 既に他の企業から要請がある場合、質問書は共通で追加負担は少ない（例：自動車関連サプライヤー）
- CDPのシステムによりデータ集約等が行われ、統一性の図られた成果物を取得可
- 登録メンバーは産業別原単位などのデータも得られ、毎年更新される



CDPによる産業分類 (CDP-ACS)

ACS: 活動分類システム

CDP産業 CDP活動グループ CDP活動種(細分) 質問書セクター

| CDP Industry | CDP Activity Group | CDP Activity | Questionnaire Allocation |
|--------------|--|--|--------------------------|
| Retail | Trading, wholesale, distribution, rental & leasing | Food & beverage wholesale | Food beverage & tobacco |
| | | Home & office wholesale | General |
| | | Industrial machinery distribution | |
| | | Metals supply, wholesale & trading | |
| | | Pharma & health care supplies wholesale & distribution | |
| | | Technology hardware wholesale & distribution | |
| | | Textile & apparel wholesale | |
| | | Transportation equipment wholesale & dealing | |
| | | Vehicles & machinery rental & leasing | |
| | | Wood & paper products wholesale | Paper & forestry |
| Services | Commercial & consumer services | Commercial services | General |
| | | Consumer services | |
| | | Travel services | |
| | Financial services | Asset managers | Financial services |
| | | Banks | |
| | | Insurance | |
| | | REIT | Real estate |
| | Industrial support services | Energy services & equipment | General |
| | | Industrial services | |
| | | Mining & metals support services | |
| | | Transportation support services | |
| | IT & software development | IT services | |
| | | Software | |
| | Media, telecommunications & data center services | Media | |
| | | Servers & data centers | |
| | | Telecommunications services | |

表 : CDP-ACS-full-list-of
-classifications より













CDP産業 : 13部門
ー活動グループ : 60部門
ー活動(細分類) : 208部門

(参考) 13部門 :
 建設・インフラ、化石燃料、発電、
 原料採掘・製造、製造業、医薬・
 衛生用品、飲食料製造・農水産業、
 アパレル、小売、接客サービス業、
 サービス販売、輸送業、国際機関

サプライチェーンプログラムにて提供



- 質問書回答の有効数5000社以上のデータから集約
(全世界、米ドルベース)
- 各社のCDP回答を元に集計
- 産業別/活動グループ/活動(細分類)それぞれに対し、
平均値、中央値の値を算出して提示
(最低標本数10社)
- 異常な値を排除し推奨できる値を算出済み
- 検証時にも利用可能

| Sectoral Averages for Scopes 1&2 location-based (Intensity in tCO2e/M\$) | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|--|---|---|---|--|---|---|---|--|
| CDP Industry name  | Median intensity (Industry)  | Mean intensity (Industry)  | Cleaned sample size (Industry)  | CDP Activity Group name  | Median intensity (A. Group)  | Mean intensity (A. Group)  | Cleaned sample size (A. Group)  | CDP Activity name  | Median intensity (Activity)  | Mean intensity (Activity)  | Cleaned sample size (Activity)  |
| Apparel | 20.53 | 323.0 | 98 | Textiles & fabric goods | 20.53 | 323.0 | 98 | Luggage & bags | 16.93 | 16.93 | 1 |
| | | | | | | | | Textiles | 16.7 | 673.0 | 1 |
| | | | | Biotech & pharma | 24.95 | 62.15 | 73 | Biotechnology | 3.25 | 60.54 | 1 |
| Biotech, health care & pharma | 21.55 | 40.36 | 143 | Health care provision | 32.44 | 30.74 | 14 | Pharmaceuticals | 15.94 | 61.95 | 14 |
| | | | | Medical equipment & supplies | 15.24 | 34.2 | 41 | Health care facilities | 32.44 | 30.74 | 14 |
| | | | | | | | | Health care supplies | 73.18 | 32.6 | 12 |
| | | | | | | | | Medical equipment | 11 | 15.94 | 36 |
| | | | | | | | | Alcoholic beverages | 3.98 | 311.2 | 25 |
| | | | | | | | | Animal processing | 70.76 | 103.1 | 15 |
| | | | | | | | | Baked goods & cereals | 88.1 | 88.1 | 25 |
| | | | | | | | | Dairy & egg products | 47.55 | 270.7 | 25 |
| Food, beverage & agriculture | 53.56 | 559.4 | 351 | Food & beverage processing | 63.11 | 1092 | 313 | Fruit, nut & vegetable processing | 75.24 | 50.44 | 35 |
| | | | | | | | | Grain & corn milling | 35.68 | 126.4 | 15 |
| | | | | | | | | Non-alcoholic beverages | 35.04 | 81.1 | 25 |
| | | | | | | | | Other food processing | 69.48 | 176.10 | 35 |
| | | | | Tobacco | 15.7 | 16.15 | 16 | Tobacco products | 15.7 | 16.15 | 16 |

基準年、目標設定、削減について

疑問および説明

基準年はどうすればいいの？

基準年と算定を変えていいの？

GHGプロトコル基準においては、
スコープ3の基準年設定は必要

ただし...

実際にはスコープ3の算定の精度は
最初は低く、後年に高まる(傾向)



その時点でベストの基準年を設定し、
後で基準年の算定を見直す(再算定)
／信頼性の高い年にて再設定

スコープ1, 2
よりも柔軟に



目標設定や削減は？

『算定方法を見直したら、排出量が大きく減った！(増えた！)』

⇒ 自社の実態を適切に表す形なら、
それは正しい方向性（結果）。

情報開示やSBT設定には、
スコープ3の削減目標も重要



随時、算定を見直してスコープ3
排出量の確かさを上げていく。
SBTなど目標においても、算定の
実態に合わせて情報を更新する

算定結果の理解や、検証（保証）について

疑問および説明



スコープ1, 2と違って数値が不正確？ 同業他社と数値が大きく違う。

- ・スコープ3の算定は1, 2よりも不正確！
- ・他社と直接比較はできない！

他社比較の大小、
“Ot”の計算結果の正確さよりも...

自社の活動/範囲を網羅できているか、
把握・算定法が自社の実態に近いか、
より一次データが多いかが重要。

一次データをどうやって検証機関に 認めてもらえばいい？

一次データの確からしさを算定時に確認、
そのロジックを検証者に説明。
(データの一貫性、算定の透明性は重要。)

GHGプロトコルも、
可能な限り一次データの利用を推奨。

環境省等のデータベースに当てはめるのは、
他の有効な方法がない場合の代替手段になります。
“公的な原単位が、自社算定にて信頼性が高いとは限らない”

削減可能なスコープ3の算定のためにも、自社に合った直近の実態を反映できる
原単位(できれば一次データ)をまずはご検討ください。
< CDPでは、そのためのデータを提供する準備ができています >

まとめ、スコープ3 算定の「要点」



スコープ3の算定は複雑・限界がある... そこで、

- ◆ **自社ではどのカテゴリ（バリューチェーン）が重要か**

原料採掘・生産？ 製品の使用時？ 輸送時？ フランチャイズ？

- ◆ **現在の算定法が実態を反映できているか**

特に排出量の多い/重要なカテゴリの算定において、分類や原単位の設定(選択)が適切か。

- ◆ **削減につながる算定ができるか**

「活動量 × 二次データの排出原単位」からの脱出

：一次データ(直接取得のデータ)が利用できないか。取引先の実態把握、LCA算定する、等

CDPサプライチェーンプログラムも利用可能



「重要な排出」の削減取組：自社取組み + 上流・下流の関係者への働きかけへ

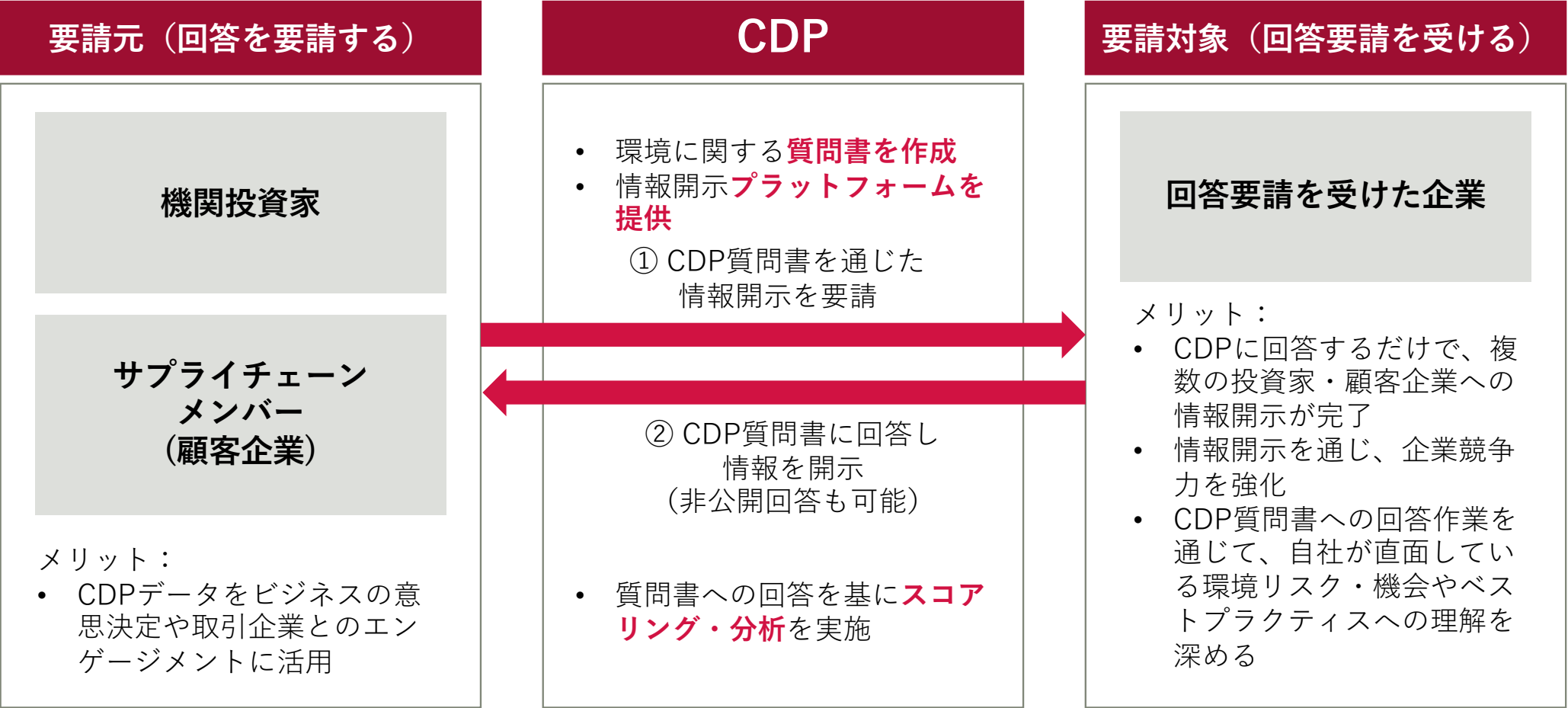
プログラム



- ▼ オープニング： CDP 高瀬 香絵
- ▼ スコープ3の概要と削減活動の可視化について：
株式会社ウェストボックス 鈴木 修一郎 様
- ▼ 企業の実情に沿ったスコープ3の把握と削減に向けて：
CDP 河村 渉
- ▼ **CDPサービスのご紹介：CDP 松川/河村**
CDP サプライチェーン・プログラム
CDP RS及び認定パートナー
- ▼ 質疑応答
- ▼ 閉会

CDP サプライチェーン・プログラム

CDPの情報開示の仕組み



CDP質問書の内容



気候変動



【主な質問】

- ガバナンス
- リスク・機会
- 事業戦略
- 目標と実績
- 排出量算定方法
- GHG排出量
- 排出量詳細
- カーボンプライシング
- エンゲージメント(協働)

水セキュリティ



【主な質問】

- 現状
- ビジネスへの影響
- 手順
- リスクと機会
- 施設別水のアカウンティング
- ガバナンス
- ビジネス戦略
- 目標

フォレスト



【主な質問】

- コンテキスト
- トレーサビリティ
- ターゲット・認証基準
- リスクと機会

＜森林減少に関係する4つの
コモディティ＞：

木材、パーム油、牛製品、大豆
(+天然ゴム、ココア、コーヒー)

TCFD（気候変動関連財務
情報開示タスクフォース）
の提言に沿った質問内容

CDPの回答評価



情報開示 (D、D-)

- 現状の把握

認識 (C、C-)

- 環境リスクが自社にどのような影響をもたらすか

マネジメント (B、B-)

- 環境リスクやその影響をどのように管理しているか

リーダーシップ (A、A-)

- 環境リスクをどのように解決できるか

※無回答企業のスコアはF

CDP署名投資家



2020年、投資運用総額**106兆米ドル超**、**515**を超える投資家
2021年には署名投資家数は**590**を超える

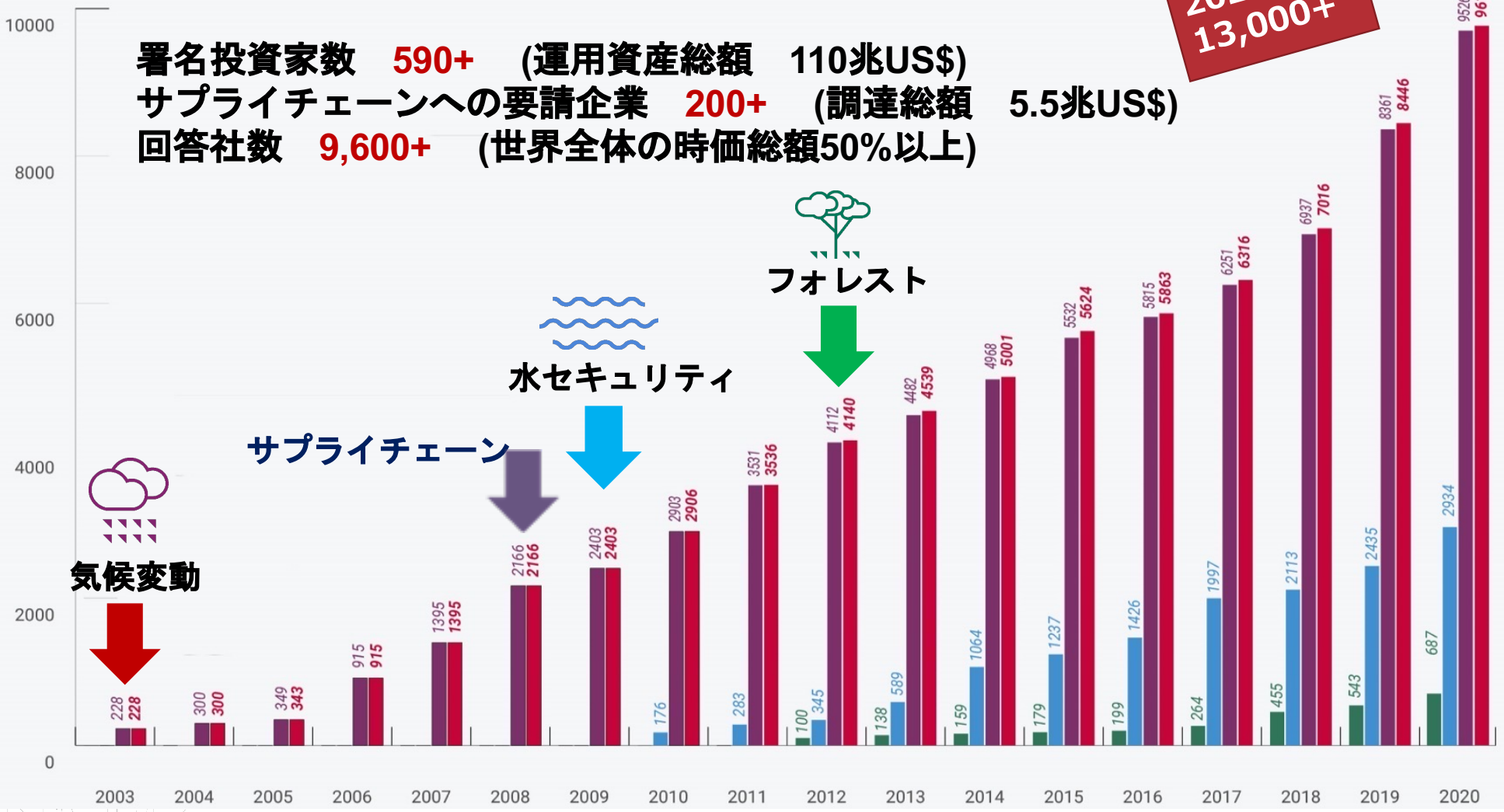
| 日本の署名投資家（20機関） | ※2021年9月時点 |
|---------------------------|------------|
| MS&ADインシュアランスグループホールディングス | |
| SOMPOホールディングス | |
| 住友生命 | |
| 大和証券グループ本社 | |
| 東京海上アセットマネジメント | |
| 東京海上日動火災保険 | |
| 日興アセットマネジメント | |
| ニッセイアセットマネジメント | |
| 日本政策投資銀行 | |
| 農林中央金庫 | |

| |
|--------------------|
| 野村ホールディングス |
| 富国生命投資顧問 |
| みずほフィナンシャルグループ |
| 三井住友DSアセットマネジメント |
| 三井住友トラストアセットマネジメント |
| 三井住友フィナンシャルグループ |
| 三菱UFJ信託銀行 |
| 三菱UFJフィナンシャル・グループ |
| 明治安田生命保険 |
| りそなアセットマネジメント |

CDP質問書への回答社数推移

署名投資家数 **590+** (運用資産総額 110兆US\$)
サプライチェーンへの要請企業 **200+** (調達総額 5.5兆US\$)
回答社数 **9,600+** (世界全体の時価総額50%以上)

2021年
13,000+

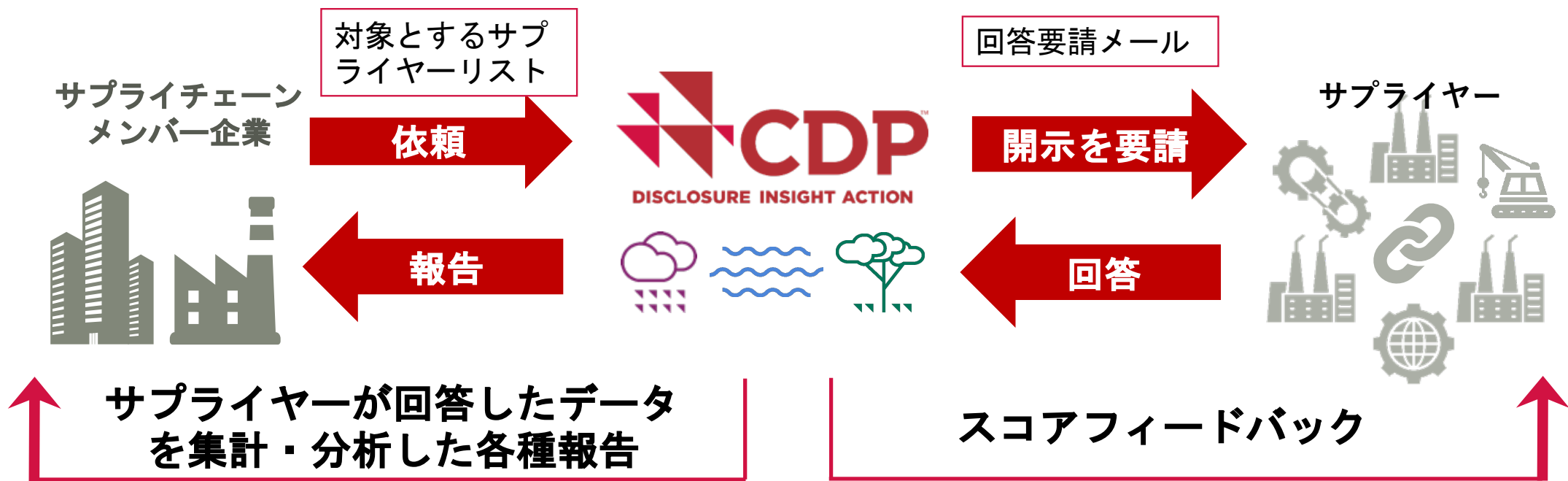


回答企業総数 気候変動回答企業数 水セキュリティ回答企業数 フォレスト回答企業数

CDPサプライチェーン・プログラムの仕組み



- ▼ 自社のサプライヤーリストをCDP に提出（スタンダードレベル：最大500社）
- ▼ CDPは、全サプライチェーンメンバーから提出されたサプライヤーリストを統合し、対象企業に回答要請を送付
- ▼ サプライヤーからの情報開示（回答）を受けスコアリング
- ▼ メンバー企業には収集したサプライチェーンの情報・データを分析して提供
- ▼ サプライヤーにはスコア等のフィードバックを提供



CDPサプライチェーンメンバー（2021年）200社以上



2021年CDPサプライチェーンメンバー：JAPAN



Eat Well, Live Well.

Aji

AJINOMOTO.



HONDA



FUJITSU



KaO

Enriching lives. In harmony with nature.



NISSAN
MOTOR CORPORATION



TOYOTA



ひとの
ときを、
想う。

JT

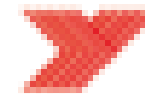


Orchestrating a brighter world

NEC



SEKISUI



YOKOHAMA



NTT Data



NRI



環境省

Ministry of the Environment
Government of Japan

サプライチェーンプログラムで提供される分析ツール/ 報告書

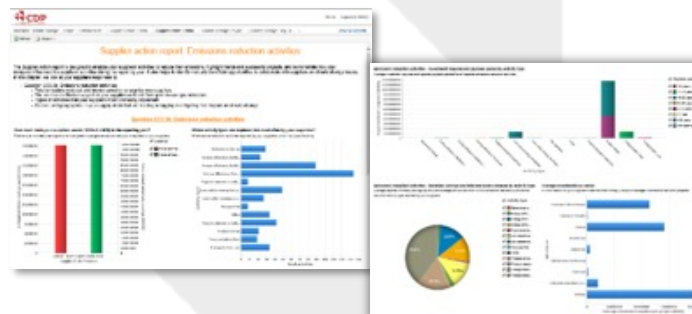


- ▼ 専用のオンライン・ダッシュボードによるリアルタイムの進捗管理
- ▼ さまざまな種類のWebinarによるサプライヤーのキャパシティビルディング促進
- ▼ メンバー限定イベントでのメンバー間の交流と有益な情報のシェア

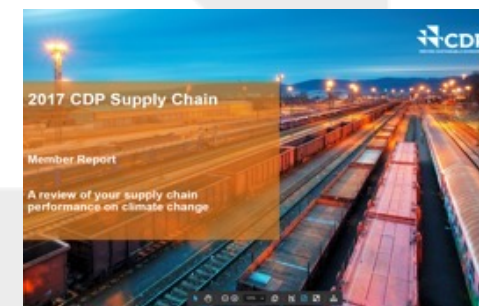
Snapshot & Full Data Extract

| Service Provider Name | Integrates climate change into business strategy | Status (GRI) disclosed | Active emissions | Reported emissions | Reported emissions reduction | Engage top suppliers | Allocate emissions | Collaborative opportunities | 2013 disclosure band | | 2014 disclosure band | | 2015 performance band | |
|-----------------------|--|------------------------|------------------|--------------------|------------------------------|----------------------|--------------------|-----------------------------|----------------------|------|----------------------|------------|-----------------------|------|
| | | | | | | | | | 2013 | 2014 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 |
| Supplier 1 | Yes | Yes | 502 | Yes | Yes | Yes | Yes | Yes | 34% | 90% | B | C | | |
| Supplier 2 | Yes | Yes | 54902 | No | Yes | Yes | Unanswered | Yes | 17% | 0% | Not Engage | B | C | |
| Supplier 3 | Yes | Yes | 20107 | Yes | Yes | No | No | Yes | 87% | 0% | C | C | | |
| Supplier 4 | No | No | No | No | No | No | No | No | 0% | 0% | E | | | |
| Supplier 5 | No | No | No | No | No | No | No | No | 0% | 0% | | D | D | |
| Supplier 6 | No | Yes | 140824 | No | No | Yes | No | Unanswered | 34% | 83% | D | D | | |
| Supplier 7 | No | No | Unanswered | No | No | No | No | Yes | No | 0% | 47% | Not Engage | Not Engage | |
| Supplier 8 | No | No | Unanswered | No | No | No | Unanswered | Unanswered | 0% | 0% | Not Engage | Not Engage | | |
| Supplier 9 | No | Yes | 10013 | Yes | Yes | Yes | Yes | 80% | 0% | 0% | A | A | | |
| Supplier 10 | No | No | No | No | No | No | No | No | 0% | 0% | No | No | No | No |
| Supplier 11 | Yes | Yes | 300360 | Yes | Yes | Yes | Yes | Unanswered | 87% | 94% | B | A | | |

グラフィック・アナリティクス



カスタム・レポート



Scope 3 レポート

[illegible]

サプライヤー回答状況チェックリスト



サプライチェーンレポート

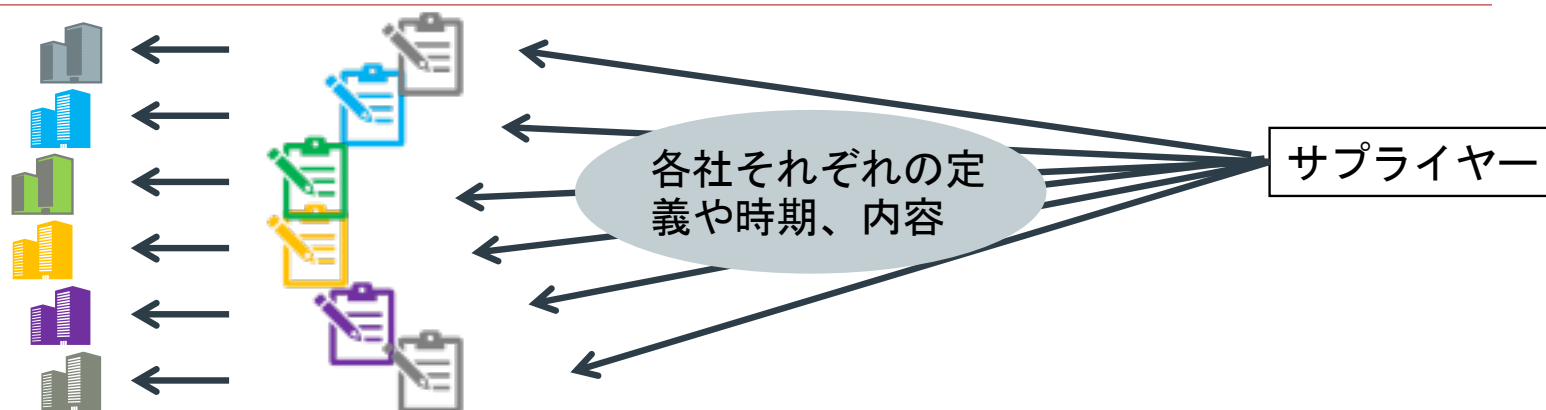


サプライチェーンプログラムのメリット

大事な取引先への
負担を心配する声

▼複数の取引先への対応が「CDPへの回答」で完結します

サプライヤー側にとっては、複数の取引先からそれぞれ異なる質問書・アンケートを受け
るよりも、CDPを介した統一質問書に回答する方が、費やす時間が大幅に削減できます



サプライヤーが受けるメリット

▼サプライヤーが、御社と共通の定義で、環境の課題を理解する

グローバルで何が求められているのか、**質問書から学ぶ**ことができます

▼サプライヤーの向上努力を評価し、関係をより強力なものに

標準化された定量データやスコアを毎年追っていくことによって、サプライヤーの取り組みの進捗を評価できます。さらに**課題や、今後協働すべき項目**を共に認識することができます

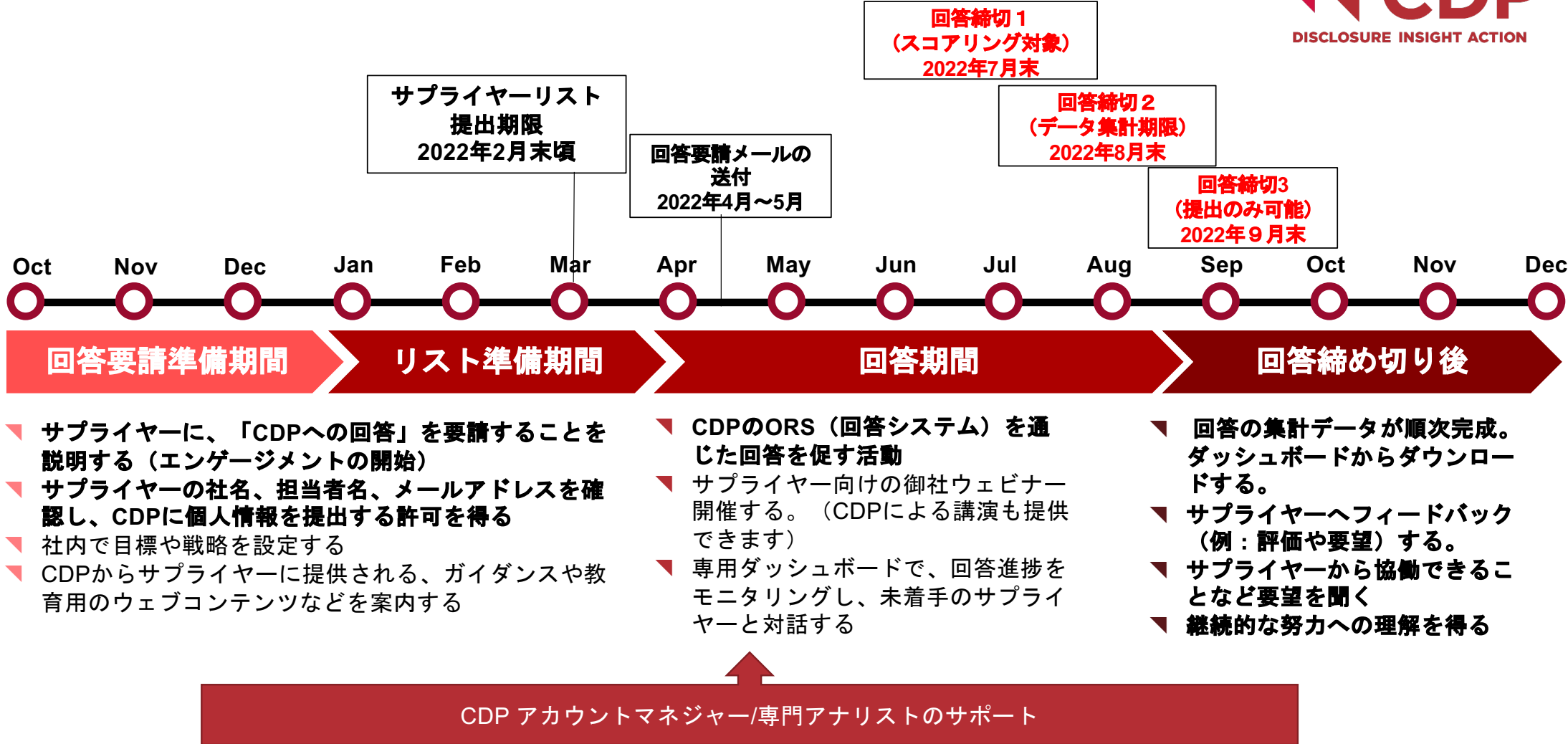
▼他のリーダー企業の事例を学ぶ

「公開」することを選択している企業の過去の回答を参照することで、これまで試行されてきた**ベストプラクティスを学ぶ**ことができます

▼気候変動関連リスクや機会に対する認識を持ち、戦略や削減目標、進捗を管理

質問書には**TCFDやSBT、SDGs**などが参照されており、これらのグローバルなイニシアチブの最新の動きと整合していきます

年間スケジュール（2021年の例示）



CDP レポーターサービス

レポーターサービス



開示からリーダーシップを示すための活動まで、個別企業に応じたオーダーメイドのサービスを提供いたします。



開示支援



データや分析
ツール



ネットワーキン
グ、イベント

Disclosure. Insight. Action.

開示 分析 行動

開示支援



CDPのアカウントマネジャーが、CDP質問書・ガイダンス・スコアリングの理解をサポートし、御社の回答が投資家にとってより有益になるように支援いたします。

スコアフィードバック(コール)



- ▼ 2021年の回答についてのフィードバックを提供します。特に時間をかける必要のある改善点などを中心にお伝えします。(アクション等)

ギャップ分析(ワード資料&コール)

W2.3

Please state how frequently you undertake water risk assessments, what geographical scale and how far into the future are risks considered?

| Frequency | Geographic scale | How far into the future are risks considered? |
|-----------|------------------|---|
| Annually | Facility | >6 years |

MB **Miranda Burnham**
Long Term Recommendations
CDP incentivizes companies to assess risk at the river basin level since this means that the local, contextual issues (such as other water users within the water basin) are considered which is critical to fully understanding potential risk to the company. This approach suggests that the company is going beyond the company fence line rather than considering just water use within its own operations.

- ▼ 2022年質問書やスコアリング方法の変更を考慮しながら、改善を要するギャップ、及び改善するためのアドバイスを全回答に渡って詳細にお伝えします。

最終レビュー(ワード資料&コール)

(C2.2b) Provide further details on your organization's process(es) for identifying and assessing climate-related risks.

- Description of a process for identifying and assessing climate-related risks
- Definition of substantive financial impact when identifying and assessing climate-related risks
- Description of process(es) is consistent with 2.2 and 2.2a.

(C2.2c) Which of the following risk types are considered in your organization's climate-related risk assessments?

- "Relevant, always included" – company-specific example of a risk type and how it is included in the climate-related risk assessment
- "Relevant, sometimes included" – company-specific example of a risk type and how it is included in the climate-related risk assessment
- "Not relevant, included" – company-specific example of a risk type and how it is included in the climate-related risk assessment
- "Not relevant, explanation provided" – company-specific example of a risk type and how it is included in the climate-related risk assessment

hvor Kodragic
What do you mention economic financial impact, could you elaborate more on what constitutes a "substantive" financial impact for Eni or one of Eni's divisions?
Example: We consider "substantive" risks that have the potential to affect more than 5% of quarterly EBIT

hvor Kodragic
You can mention examples you provide already in 2.3a here to ensure the company specificity criteria mentioned below. Please keep in mind that we also consider consistency between this question and 2.3a.

| Calculations | Result |
|------------------------------------|----------------------|
| C4.1a - Abs target y-o-y reduction | Not ambitious enough |
| C4.1b - Int target y-o-y reduction | Ambitious enough |
| C4.1a - Abs % complete vs. % time | Ambitious enough |
| C4.1b - Int % complete vs. % time | Ambitious enough |
| C4.3a/b - ERA totals | Consistent |
| C7.1a - Scope 1 bre akdown - GHG | Consistent |

- ▼ 2022年の回答提出前に回答をレビューし、御社の開示の質の向上を支援します。

データや分析ツール

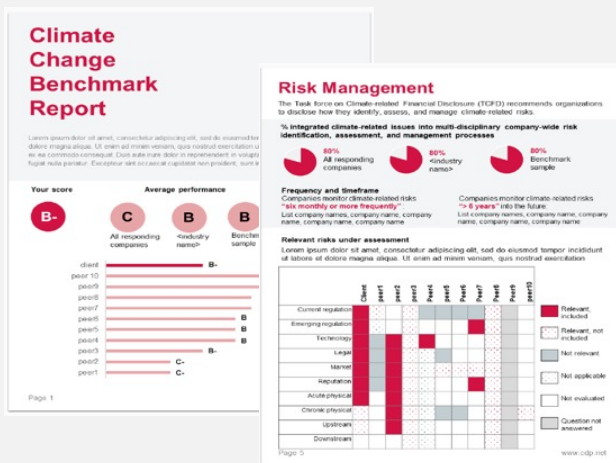


CDPへの他社回答へのアクセスや分析ツールによって、御社の回答や取り組みの向上を支援します

セクター別データ抽出 (エクセルファイル)

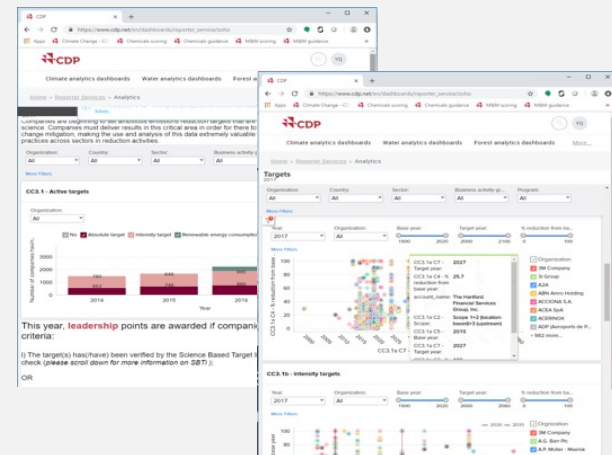
▼ ベストプラクティス回答やすべての設問について御社の所属するセクターの回答をご提供可能です。

御社指定企業についてのベンチ マークレポート(PDF)



▼ 同業他社等と比較することで、御社の強み・改善点を理解し、次にとるべき方策を考えましょう。

分析ツール(Analytics) (オンラインレポート)



▼ セクターでのリスク・機会が何であり、それをどのように管理するのかについて検討の助けとなります。

メンバー向けイベント



持続可能性に向けた取り組みに真剣真剣に取り組む回答企業や個別課題の専門家によるネットワークに加わってみませんか。



ジャパクラブ (通常有償を無料招待)

持続可能性についてのトップ企業、意欲の高い企業による年4回の最先端を議論するクラブ。海外から温ゲストと直接対話をしたり、他社の取り組み、世界の潮流をいち早く知り、御社の取組を知らせる機会となります。

CDPニュースレターのご紹介



- ▼ CDPニュースレターでは、毎月、最新のレポートやイベント等の情報をお知らせしております。
- ▼ ご希望の方はこちらからご登録ください
(<https://cdp-jp.net/1623216215>)
- ▼ 送付したレターが迷惑メールフォルダーに入ってしまう場合がございますので、ご注意ください。
- ▼ お問い合わせは、press.japan@cdp.net までご連絡ください。

パートナーのご紹介



スコアリングパートナー



気候変動



| | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | |
| | | | | | |

水セキュリティ



| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | | |
|--|--|--|--|--|

フォレスト



CSR DESIGN

▼ 詳細やご紹介の依頼は、japan@cdp.net (日本語)までご連絡ください。

データパートナー（ゴールド）



Quick

▼ 詳細やご紹介の依頼は、japan@cdp.net (日本語)までご連絡ください。

CDP認定再エネプロバイダー



▼ 詳細やご紹介の依頼は、japan@cdp.net (日本語)までご連絡ください。

CDP認定コンサルティングプロバイダー



- ▼ スコープ3算定支援
- ▼ 製品・サービスの排出量算定
- ▼ カーボンオフセット・再エネ証書
- ▼ CDP、SBT、TCFD対応支援

▼ 詳細やご紹介の依頼は、japan@cdp.net (日本語)までご連絡ください。



CDPジャパン事務局

Address: 東京都千代田区大手町2-2-1新大手町ビル3階



Tel: +81 (0)3 6225 2232



www.cdp.net/ja/japan (日本語サイト)



Contact email address:
japan@cdp.net

サプライチェーン・メンバーシップに関するお問い合わせ
supplychain.japan@cdp.net 担当：松川、河村、井上

プログラム



- ▼ オープニング： CDP 高瀬 香絵
- ▼ スコープ3の概要と削減活動の可視化について：
株式会社ウェストボックス 鈴木 修一郎 様
- ▼ 企業の実情に沿ったスコープ3の把握と削減に向けて：
CDP 河村 渉
- ▼ CDPサービスのご紹介：CDP 松川/河村
CDP サプライチェーン・プログラム
CDP RS及び認定パートナー
- ▼ 質疑応答
- ▼ 閉会

プログラム



- ▼ オープニング： CDP 高瀬 香絵
- ▼ スコープ3の概要と削減活動の可視化について：
株式会社ウェストボックス 鈴木 修一郎 様
- ▼ 企業の実情に沿ったスコープ3の把握と削減に向けて：
CDP 河村 渉
- ▼ CDPサービスのご紹介：CDP 松川/河村
CDP サプライチェーン・プログラム
CDP RS及び認定パートナー
- ▼ 質疑応答
- ▼ 閉会

- ▼ 最後までご参加くださりありがとうございました
- ▼ Zoom 退出後にアンケート画面に移ります
お手数をおかけしますが、ぜひご協力ください